

第9回 台東区子供歴史・文化検定 解答と解説（小学生用）

解説文の最後に、参考として『台東区歴史・文化テキスト 改訂版』と『台東区歴史・文化テキスト 第三版』の^{ページ}数を^{けいさい}掲載しています。

平成30年度 台東区教育委員会

問1.

解答 ウ

解説 ^{じょうもん}縄文時代は、今から約1万5千年前から始まったと考えられています。
^{こふん}古墳時代は、3世紀の中ごろから始まりました。(改訂版9頁、第三版13頁)

問2.

解答 ア

解説 縄文時代とは、土器の表面に縄目なわめの文様もんようがついていた縄文土器を使用していたことから名づけられました。(改訂版9頁、第三版13頁)

問3.

解答 ア

解説 古墳時代の人々は、地面を掘り下げ、柱を立てて、ワラやカヤなどで屋根をふいた、^{たてあなじゅうきよ}竪穴住居に住んでいました。イの長屋は江戸時代、ウの文化住宅は大正時代から建てられ、エのアパートメントハウス(アパート)が最初に建てられたのは明治時代のことです。
(改訂版10～11頁、第三版14～15頁)

問4.

解答 エ

解説 アの鎌倉幕府は^{みなもとのよりとも}源頼朝が鎌倉に、イの室町幕府は^{あしかがたかうじ}足利尊氏が京都に開きました。^{おだのふなが}織田信長は^{あづち}安土に城を築きましたが、幕府は開いていません。
(改訂版14頁、第三版18頁)

問5.

解答 ウ

解説 浅草寺の^{けいだい}境内に1618(元和4)年につくられました。(改訂版16頁、第三版20頁)

問6.

解答 イ

解説 江戸時代の初めの寛永寺そうげん創建の時に、天海僧正てんかいそうじょうによりつくられました。
(改訂版17・75頁、第三版21・97頁)

問7.

解答 イ

解説 国民学校初等科の3年生から6年生の児童らは、学童疎開そかいの対象になりました。下谷区したやの学校は福島県ふくしまけん、浅草区みやぎけんの学校は宮城県に疎開しました。
会津美里町あいづみさとは当時の疎開先えんの縁で友好都市になりました。(改訂版31～33頁、第三版39～42頁)

問8.

解答 ウ

解説 関東大震災では、下町の住宅密集地じゅうたくみっしゅうちを中心に火事で多くの住宅が焼けてしまいました。その後学校をつくる時に、学校の隣となりや近くに公園こうえんを設けることによって、避難場所ひなんとしました。(改訂版30頁、第三版38～39頁)

問9.

解答 エ

解説 徳川慶喜とくがわよしのぶが寛永寺かんえいじに謹慎きんしんしたことによって、彰義隊しょうぎだいも上野の山に立てこもりました。しかし、5月15日、官軍くわんぐんの総攻撃そうこうげきを受けてわずか半日で敗れ去りました。(改訂版23頁、第三版28頁)

問10.

解答 工

解説 寛永寺の「時の鐘」は大仏の正面に設置されています。現在でも1日3回、朝夕6時と正午に時刻を告げています。浅草寺の「時の鐘」は弁天山に設置されて、1日1回朝6時に鳴らされています。

(改訂版54頁、第三版67頁)

問11.

解答 ウ

解説 ほかに狎(犬)や水鳥、猫などが飼われていました。ウのコアラが日本に来たのは1984(昭和59)年で、動物園で飼育するためにオーストラリアから贈られました。(改訂版56頁、第三版69頁)

問12.

解答 ウ

解説 瓦版は、江戸時代から明治時代にかけて数多く摺られた、現在の新聞や雑誌などにあたる大衆向けの印刷物でした。(改訂版55頁、第三版67～68頁)

問13.

解答 工

解説 ペットボトルが日本で使われるようになるのは、昭和時代になってからのことです。(改訂版47頁、第三版58頁)

問14.

解答 ア

解説 江戸の町には上水道が引かれ、町中には石や木でできた樋を地中にうめて、水をその中に流して使用しました。(改訂版39～40頁、第三版49～50頁)

問15.

解答 ア

解説 区内には浅草広小路や下谷（上野）広小路などの火除地がありました。
（改訂版80頁、第三版102頁）

問16.

解答 ウ

解説 橋がかかっていると、そこから敵が攻めてきやすくなるため、あまり橋
がかけられませんでした。そのため、人々は渡し舟で川を渡りました。（改
訂版74～75頁、第三版95～96頁）

問17.

解答 エ

解説 ^{はやかわのりつく}早川徳次は東京地下鉄道株式会社を創業し、現在の東京地下鉄^{ぎんざせん}銀座線の
上野～浅草間2.2キロで^{えいぎょう}営業を始めました。当時、東京で人の行き来が
一番多かったこの区間が選ばれました。（改訂版151頁、第三版186
頁）

問18.

解答 ウ

解説 門前町が成立することによって、その周辺も発展し、市街地化がいつそ
う進むという効果もありました。（改訂版83頁、第三版105頁）

問19.

解答 ア

解説 五街道の出発地点は日本橋です。（改訂版68頁、第三版87頁）

問20.

解答 ウ

解説 現在は台東区と墨田区くさかいの区境ですが、むかしは武蔵国と下総国の国境でした。(改訂版70頁、第三版90～91頁)

問21.

解答 エ

解説 浅草神社は、檜前ひのくまのはまなり浜成たけなり、竹成兄弟と、土師中知はじのなかともをまつた神社です。このことから三社様として親しまれています。(改訂版112頁、第三版141頁)

問22.

解答 ア

解説 天海が取り寄せた桜は、奈良県の吉野山にある山桜やまざくらでした。その後、上野には多くの人が桜を植樹しょくじゆし、その様子が歌に詠よまれたり、絵に描かれたりするようになりました。現在上野公園で多く見られる桜は、ソメイヨシノという種類しゆるいですが、これは江戸時代に江戸近郊の染井村そめいむらで品種改良ひんしゆかいりようされたものです。(改訂版18頁、第三版22頁)

問23.

解答 ウ

解説 年末の酉とりの市では「福かを搔かきこむ熊出」として、お多福たふくや千両箱、稲穂などをつけた熊手えんぎものが縁起物として境内で売られています。(改訂版96頁、第三版124頁)

問24.

解答 ウ

解説 吉宗は飢饉^{ききん}や病^{びょう}などの災厄^{さいやく}の中で死者^{しや}の慰霊^{いれい}と悪霊^{あくりょうたいさん}退散^{たいさん}を祈り、隅田川の水神祭りを催^{もよお}しました。また、それに合わせて花火^{ひろう}を披露^{ひろう}しました。これが今の隅田川花火大会につながっています。(改訂版94頁、第三版122頁)

問25.

解答 ウ

解説 明治時代に盛^{さか}んだ朝顔市^{あさがお}は、1913(大正2)年に途絶^{とた}えましたが、1948(昭和23)年に復活^{ふっかつ}し、入谷鬼子母神(真源寺)境内^{きん}を中心に朝顔を売^うる店^{みせ}が立ち並^{なら}んで昼夜賑^{にぎ}わっています。(改訂版94頁、第三版122頁)

問26.

解答 ア

解説 大根^{だいこん}は待乳山^{まつちやま}聖天^{しょうてん}のシンボルにもなっていて、毎年1月7日には大根まつりが開かれます。(改訂版100頁、第三版128頁)

問27.

解答 イ

解説 住職^{じゅうしやく}が鯉^{こい}の墓^{はか}をつくらうとすると、若者^{わかしよ}たちは無理やり持ち帰りみんな^{みな}で食べてしまいました。すると、鯉^{こい}を食べた人は苦しみ出し、次々に亡^なくなったため、人々は鯉^{こい}のたたりだと住職^{じゅうしやく}に頼^{たの}んで供養^{くよう}してもらい、鯉塚^{こいづか}を建てました。(改訂版105頁、第三版133頁)

問28.

解答 ア

解説 とんど焼きとは正月のしめ飾り^{かざ}などを焼く行事で鳥越神社^{とりこえじんじや}のものが有名です。(改訂版88頁、第三版116頁)

問29.

解答 ウ

解説 この4社の中で、かつて今の上野公園にあったのは小野照崎神社のみです。(改訂版109～110頁、第三版139頁)

問30.

解答 ウ

解説 江戸時代には、今のかっぱ橋道具街通りを新堀川が流れていました。現在、かっぱ橋道具街通りの南側の通りを新堀通りと呼んでいます。(改訂版101頁、第三版129頁)

問31.

解答 エ

解説 池波正太郎^{しやうたろう}は昭和時代を代表する時代小説の作家です。戦後は、台東区役所に勤務^{きんむ}するとともに劇作家^{げきさつか}を目指しますが、しだいに小説家として活躍^{かつやく}するようになり、1960(昭和35)年『錯乱^{さくらん}』で直木賞を受賞しました。(改訂版136～137頁、第三版169頁)

問32.

解答 ウ

解説 幕府^{ばくふ}から命令を受けた天文学者の高橋至時^{たかはしよしとき}は、浅草天文台^{かんぞく}で星の観測を続け、寛政^{かんせい}の改暦^{かいろき}を完成させました。(改訂版114～115頁、第三版144～145頁)

問33.

解答 イ

解説 ^{ただたか}忠敬の時代には飛行機はありませんでした。飛行機が実用化されたのは、20世紀に入ってからです。(改訂版117～119頁、第三版148～149頁)

問34.

解答 エ

解説 ^{こうだろはん}幸田露伴は明治から昭和にかけて活躍した小説家です。^{りそうしゅぎ}理想主義的作風をもつて^{おさきこうよう}尾崎紅葉とともに「^{こうろじだい}紅露時代」と呼ばれる一時代を^{きす}築きました。(改訂版135頁、第三版167頁)

問35.

解答 イ

解説 アは西郷隆盛の像、ウは上野大仏の残された顔、エは^{のぐちひでよ}野口英世の像です。(改訂版141頁、第三版173頁)

問36.

解答 ウ

解説 江戸時代後期に多く^{ゆにゅう}輸入、^{ほんやく}翻訳された洋書は、主にオランダ(和蘭)から輸入され、オランダ語で書かれた書物でした。また、浅草橋には幕府の研究機関であった^{てんもんがた}天文方や翻訳機関の^{ばんしょわけごよう}蕃書和解御用が置かれていたため、多くの学者が集まってきました。(改訂版114頁、第三版144頁)

問37.

解答 ア

解説 江戸時代には各地域でいろいろな野菜が^{さいばい}栽培されました。谷中はしょうがで有名でした。(改訂版121頁、第三版152頁)

問38.

解答 ア

解説 横山大観は好んで富士山の絵を描いたことで有名です。(改訂版129頁、第三版160頁)

問39.

解答 エ

解説 葛飾北斎は江戸時代後期の代表的な浮世絵師です。区内で亡くなり、誓教寺にお墓があります。(改訂版123～124頁、第三版154～155頁)

問40.

解答 ア

解説 ロッシュは駐日^{ちゅうにち}フランス公使、パークスは駐日イギリス公使、ゴローニンはロシアの^{くんかん}軍艦「ディアナ号」の船長です。(改訂版134頁、第三版166頁)

問41.

解答 ア

解説 ソメイヨシノは、吉野^{よしのざくら}桜などと呼ばれていましたが、上野の博物館員の^{ふじのきめい}藤野寄命によって1900(明治33)年に正式に名づけられました。(改訂版145頁、第三版177頁)

問42.

解答 イ

解説 ^{りょううんかく}凌雲閣には日本で最初のつるべ式エレベーターが設置され、8階まで見物客を乗せていました。(改訂版153頁、第三版188頁)

問43.

解答 イ

解説 博覧会はくらんかいは産業や文化が発展はってんするのに大きな役割やくわりを果たすことから近代化政策を進めていた明治政府は、博覧会かいさいを開催することにしました。それが内国勸業博覧会で、上野では3回行われました。(改訂版146頁、第三版178頁)

問44.

解答 工

解説 大正時代に初めて設置された信号機は、警察官けいさつかんが手動そうさで操作する木製の信号機でした。電灯式信号機が普及ふきゅうしたのは、昭和時代に入ってからのことです。(改訂版153頁、第三版188頁)

問45.

解答 工

解説 花やしきはもともと花を楽しむ場所でしたが、明治初期ごろからは遊戯ゆうぎ施設しせつが置かれ、その他にも珍鳥ちんちょうや猛獣もうじゅうの飼育しいく、西洋あやつり大写真や山雀がらの芸等で大評判となりました。1953(昭和28)年には「ローラーコースター」が設置されました。(改訂版149頁、第三版184頁)

問46.

解答 工

解説 2004(平成16)年11月から発行開始した五千円札には樋口一葉が描かれています。日本銀行が発行した紙幣しへいの表面で女性の肖像画しょうぞうがを採用したのは初めてです。竜泉にある一葉記念館は新五千円札を機かに建て替えられました。なお、イの紫式部は二千円札の裏面に描かれています。(改訂版161頁、第三版197頁)

問47.

解答 工

解説 代表的な句は「柿食へば鐘がなるなりほうりゅうじ法隆寺」です。(改訂版166頁、第三版212頁)

問48.

解答 ア

解説 旧東京音楽学校そうがくどう奏楽堂は、現在は上野公園内に移築されています。東京音楽学校の本館として建てられた奏楽堂は、今でもえんそうかい演奏会などに使用されている日本で最も古いもくぞう木造式音楽ホールです。(改訂版164頁、第三版192頁)

問49.

解答 工

解説 朝倉文夫は、ちょうこく彫刻の中でもちょうそ彫塑という制作方法にこだわりました。朝倉彫塑館はそこから名づけられました。(改訂版163頁、第三版195頁)

問50.

解答 イ

解説 下町風俗資料館では、明治・大正・昭和時代の初めころの下町のまち な町並みをさいげん再現しています。(改訂版159頁、第三版193頁)

MEMO